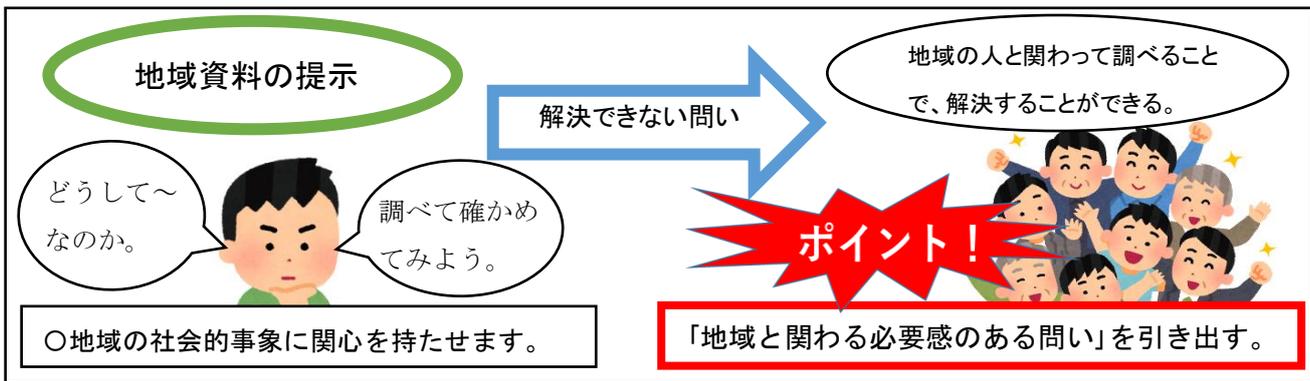


実社会や日常生活との関わりを見いだせる課題設定の工夫

「地域と関わる必要感のある問い」を引き出す

社会科の学習において、身近な地域の社会的事象への興味・関心を高めることが重要となります。そこで大切となるのが、課題設定です。子どもの問題解決的な学習を充実させるためには、子どもから「どうして」「なぜ」という問いを引き出すことが大切です。その際、実際に地域で生じている課題に気付かせることで、「地域をよくするために、自分たちにも何かできることがあるのではないか。」という問いを引き出します。こうして、地域社会の一員として、社会への関わり方を選択・判断して考えることのできる児童の育成につなげたいと考えます。



(1) 地域資料の活用による問いの引き出し方

神社を守るための取組

石垣

地震・津波の被害にあっても現在まで残っている地域の神社の写真を提示しました。これにより、神社を守るための先人の工夫に気がきました。ここから、自分たちの地域が、自然災害から命やくらしを守るためにどんな取組(対策)をしているのか調べたいという問いを引き出しました。

役場は、どんなたいくをしているのか

町役場

役場の人と関わって調べたい

(2) 地域課題の明確化による問いの引き出し方

保護者アンケートの結果

令和2年 6月8日~12日実施

61%	震災直後は高まったが徐々に落れている。
19%	震災をきっかけに高まり持続している。
10%	震災前から意識し持続している。
10%	防災を意識していない。

保護者の防災意識の変化を円グラフにまとめ、子どもたちに防災意識の低下という地域の課題に気付かせました。さらに、地域の被害の様子をつかむために、震災直後の様子を動画で視聴しました。

単元の学習を通して、自然災害から命やくらしを守ることの大切さを学んできたことで、「このままじゃまずい」と危機意識をもち、「自然災害から命を守るために、どんな備えや対処が大切か」という問いにつながりました。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント

子どもたちが主体的に地域と関わる必要感をもつことが大切です。「どうしてこのようなことをしているのか」「詳しく知りたい」「分かったことや考えたことを伝えたい」などの問いを子どもから引き出すことが、深い学びの実現に向けた第一歩となります。